

胃ガンの予防にも ピロリ除菌が

私の病院でも、五年ほど前から抗生物質によるピロリ除菌治療を行ってきました。直接的には胃・十二指腸潰瘍の再発を防ぐのですが、それに加えて「ピロリ除菌は胃ガンの予防策としてもきわめて重要」と考えています。

しかし一昨年、私自身も除菌を体験して、抗生物質とは別の除菌法の必要性を痛感しました。

理由の一つは副作用です。抗生物質に

よるさまざまな副作用が報告されていますが、私も湿疹に悩まされ、気だるい感じがずっと続き、とても苦しい思いをしました。

副作用は除菌しているときだけの一時的なものです、さらに深刻なのは除菌の失敗です。

抗生物質による除菌の成功率は八〇%前後にとどまっており、残りの二〇%は除菌できません。そして、私自身も昨年暮れに再検査をして、再び保菌者であることが判明したのです。

除菌の失敗が再感染かはわかりませんが、いずれにせよ、抗生物質による再除菌はもう期待できません。このとき、抗生物質とは別の除菌法があることが、どれだけ心強いものか。体験した方ならおわかりいただけるでしょう。こんな事情から私自身も今、AHSスパイロンを飲んで除菌に再挑戦しているところです。

すでに、私の病院のほかの患者さんは

AHSスパイロンのピロリ除菌・抑制作用は
マスコミでも大きく取り上げられた



AHSスパイロンによって除菌が成功しており、今後は抗生物質よりも、まずAHSスパイロンを患者さんにお勧めしていく方針です。

今のところ除菌対象は胃・十二指腸潰瘍の患者さんですが、これからは胃炎などの症状でも「胃ガンの予防」としてピロリ除菌が大切になってくると考えています。抗生物質以外の療法が医療現場でも広く利用されることを望んでいます。

ふじさわ・あきお

一九四六年、徳島県生まれ。大阪医科大学医学部卒。九八年、医療法人明生会賀茂病院を設立。九七年から九八年にかけて患者の免疫力を高めるためのAHSスパイロンの臨床応用を実施した。



医療法人明生会賀茂病院院長 藤澤明生